

新型コロナウイルスの対策が強まる中、道内で今春、嘔吐や下痢などを引き起こすノロウイルスの集団感染が保育所を中心に例年より多く確認されています。

Q どれぐらい多いのですか。
A 4月は、4月として



過去5年で最も多い38件が確認されました。5月も最多だった2019年と同じ46件。6月に入っても4日現在、既に12件が確認されています。どの月も8割以上を保育所が占めています。一方、お年寄りなどが暮らす福祉施設などでの発生は例年より少ないです。

ノロウイルス感染 道内で急増

ノロウイルスと新型コロナウイルスに有効な消毒液

	ノロウイルス	新型コロナ
アルコール	効かない	有効
次亜塩素酸ナトリウム溶液	嘔吐物を拭き取った後の床などの消毒には濃度0.1%が適切	有効
次亜塩素酸水	嘔吐物を拭き取った後の床などの消毒には濃度200ppm(0.02%)程度以上が望ましい	有効 ※濃度35ppm以上

新型コロナウイルスの感染予防で、人の出入りを制限するなど対策が影響していると考えられます。
Q なぜ保育所での発生が多いのでしょうか。
A はっきりとした原因は

アルコール消毒は効かず

まだ分かりません。ただ、道内の保健所などの確認では、新型コロナウイルス対策として知られるようになった消毒方法と、ノロウイルス対策用の消毒方法を混同してしまっているケースがあるようです。新型コロナウイルスに有効なアルコール消毒が効かないからです。

Q ノロウイルスに効く消毒方法は何ですか。
A ノロウイルスには、市販の塩素系漂白剤などに入った次亜塩素酸ナトリウムを水で薄めて適切な濃度に調整した溶液や、十分な濃度の次亜塩素酸水が有効です。吐しゃ物を拭き取った後の床などの消毒にはナトリウム溶液は濃度0.1%が適切で、次亜塩素酸水は濃度200ppm(0.02%)程度以上が望ましい

とされています。

Q 消毒で気をつけるポイントは何ですか。
A 次亜塩素酸ナトリウム溶液は、作り置きすると効果が弱くなってしまいます。必ず当日に水で薄める作業を行いましょう。また、次亜塩素酸水は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い一部、塩素濃度を表示せず、ノロウイルスの消毒に十分でない濃度の製品が売られているとされています。次亜塩素酸水溶液普及促進会議の菊地匡彦理事は「十分な濃度であれば、次亜塩素酸水はノロウイルスを不活化させます。製剤に製造年月日、濃度、pH(ペーハー)値、使用期限がしっかりと記されたものを選んで」と呼び掛けています。

(岩崎あんり)